

+

ご 挨 拶

同志社大学経済学部は、戦後の昭和23年に新制大学への移行にともない、独立した学部として新しいスタートをきったが、その経済学部を母胎として翌年に同志社大学経済学会が誕生した。その後経済学会は、経済学部と密接に連携しながら、経済学部の研究活動を支え、またその成果を経済学部の学生にも還元するための組織として、その活動を順調に発展させてきた。そして、西暦2000年を目前にひかえた平成12年に、創立50周年を迎えることができたのである。

この創立50周年を記念して、経済学会ではふたつの事業を計画し、そして実現することができた。ひとつは「記念シンポジウム」であり、もうひとつは「記念懸賞論文」である。この度、その記念事業のひとつである「記念シンポジウム」の成果をまとめた『経済学論叢』特別号が上梓されるにいたったことは、まことに喜ばしい限りである。

「あすの日本と経済学の課題」を共通テーマとしたこのシンポジウムでは、宇澤弘文東京大学名誉教授が社会的共通資本という概念を中心に「21世紀の経済学」と題した基調講演をまず最初に行われ、その後上記テーマに関するパネル・ディスカッションが、林敏彦（大阪大学）、猪木武徳（大阪大学）、吉川洋（東京大学）の3名の教授に本学の室田武、篠原総一両教授を加えて行われた。いずれも、現在の日本を代表する高名な経済学者の方々ばかりであり、知的刺激に富んだ興味深い内容に、本学の学生のみならず、一般市民の方々も熱心に聴講されていたことが、強く印象に残っている。

経済学の分析道具としての有用性を認めながらも、市場万能主義を批判し、それに代わる新しい経済学のあり方を探究されたこのパネルディスカッションは、「21世紀の経済学」への確かな手掛かりと深い

+

+

感銘を多くの聴衆に与えたのである。

きわめてご多忙であるにもかかわらず、シンポジウムへの参加をご快諾下さった講師の先生方に対して、ここで改めて厚く御礼を申し上げたい。また、シンポジウムの企画から実行まで、いろいろな段階でご尽力をいただいたシンポジウム準備委員会委員長の藤村幸雄教授をはじめとする準備委員会委員の先生方にも、心より感謝申し上げる次第である。

同志社大学経済学部長 清 川 義 友

+

+

+